

## ゴールデンウィーク各小屋の対応

### 【持経宿】

小屋番 村吉光夫 4/27～29、5/2～6（6泊7日）

日帰り 沖崎、湯川 4/28

梶野 4/30

沖崎、湯川、阪口、鳥羽 5/2

連休が始まる前日の4月27日に村吉さんが入宿される。初日で雨が降っているためかこの日の宿泊者は1名のみだった。

翌28日、沖崎、湯川の二人で持経宿へ出向く。缶ビールとコーラを各2ケース持参する。村吉さんは先般NHKBSの大峰特集番組で観た靡看板の文字が消えかけていることを気にされているように、この日も平治宿の靡看板を取り替えるため、湯川君が同行し平治宿へ向かった。村吉さんから「薪が長くてストーブに入らない。短くしてほしい」と依頼があり、沖崎が長いマキを短く切り揃える作業を行った。作業行中に小屋前を7～8人の登山者が通過する。皆さん全員が今夜は行仙宿に泊るそうだ。4月29日に村吉さんはいったん下山、空白となる4月30日に梶野君が、5月2日に沖崎、湯川、阪口、鳥羽の4名が日帰りで出向き登山者の対応に当たった。湯川、阪口、鳥羽の3名には平治宿に行ってもらい、水場の整備などをを行った。この日村吉さんが再入宿され、5月6日迄の小屋番を続けて頂いた。連休中に持ち込んだ缶ビールは4ケース（96本）コーラ6ケース（144本）はほぼ完売した。またこの期間の宿泊

者数は65名ほどになる。持経宿では連休の期間に事故やトラブルが無く、また多くの登山者から「小屋番さんにとっても親切でした」とのお言葉を頂き、ホッとしたと同時に村吉さんに感謝したいと思う。

### 『4月30日』

国道169号が通行止めのため十津川村経由で持経宿へ向かう。途中で沖崎さんから電話があり「国道が許可車のみ通行できるように、役場に寄って確認してくれ」と言うことだった。役場で許可証を交付していただき持経宿へ向かう。



役場に立ち寄る

掃除機で掃除

10リッターを2回

池郷林道では過去に10数回パンクしているの、これでもかと言うほど低速で走行する。路面は前回よりも悪くなっている、2回底を擦ったがパンクせずに持経宿に着いた。バッテリーの電圧をチェックし発電機を動かして掃除機で掃除する。午後4時頃に一人の登山者が通過、平治宿で泊るそうだ。小屋前に置かれたポリタンクが

(記：沖崎)

空になっていた。水場迄車で行くかとも思ったが、村吉さんも車で降りていないので、今更パンプのリスクを冒すことは無いと思い、歩いて水場に向かった。10リッターのポリタンクを担いで2回往復した。玄関わきに置かれた料金箱から500円以上の硬貨、紙幣を回収、空になったガソリン缶を車に積んだ。午後6時まで小屋に居たが、明日の雨予報が影響したのか宿泊者も通過する人も無かった。

(記：梶野)

## 【行仙宿】

小屋番と日帰りの参加者は別紙参照

連休前に青木君から「連休中、ずっと行仙宿で小屋番してもいいですよ」と有難い申し出を頂いた。青木、坂田の二人が軸となったので、あとが大変やり易くなった。加えて今年も山本さんから連休後半に2泊3日で行仙宿小屋に入ると連絡があつて、更に充実したものとなった。更に瀧本、児嶋、乾、山口各氏の一泊組と、沖崎、梶野等の日帰りフオロー国も組合せ、万全の体制となった。27日のコシアブラパーティーで気合を入れ、翌日青木、坂田の二人が行仙宿に向かった。

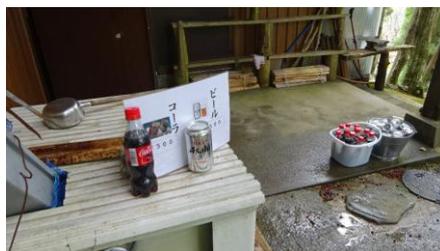
(記：沖崎)

## 『4月28日』

今日から行仙宿小屋で小屋番を担当する青木、坂田の二人を行仙宿まで送り届ける。昨年熊野修験春峰の際、雨で濡れた衣がなかなか乾かなかつたので、扇風機を一台持ってきて小屋に運んだ。お昼前に行仙宿に着いたが、到着早々登山者が次々と通り、コーラや手ぬぐいを販売する。

登山者や宿泊者の対応をお二人に任せ、持ってきた扇風機を組立て

試運転。濡れた衣服を乾かすのに役立つだろう。ソーラー発電のバッテリー電圧をチェックする。好天が続いていたので十分に充電できているようだ。



登山口に着く

コーラ、ビールを販売

登山者が通過

発電機にガソリンを入れ、空のポリタンクを4個持って下山。時間が早かったので新宮に向かって小屋番の注文を伝えた。(記：梶野)

## 今年のゴールデンウィークの総括

宿泊利用者数について

志納金から逆算すると行仙宿では10日間で85名位と思われる。一日平均10名弱。持経宿は65人位、平治宿では35人位で、併せると200名弱の宿泊利用があった。国道169号の通行止めが続いているので、宿泊者数が減少するのではないかと思っていたが、ほぼコロナ前の水準にも戻ったようだ。

宿泊者へのふるまいについて

4月28日の夕方、坂田さんから梶野君経由で豚バラ肉を2パック持ってきてほしいと注文があり翌日持って行った。何をするのかと思ったら宿泊者の皆に豚汁を振舞うという。前日雨が降ったので冷えた体に暖かい豚汁が大変喜んでいただいたようだ。翌日はおでんを提供したようだ。

5月4日に入宿した山本さんは米、肉、タマネギ、ジャガイモ等の食材を持参し、炊き立てのご飯と調理した暖かいカレーで宿泊者をもてなし大好評だったようだ。

ビール、コーラ、手拭等の物品販売について

一昨年位までは缶ビールのみを販売していたが、コーラを置いてみたところかなりの人気で、縦走者だけではなく日帰りの登山者の多くが買っていく。ノンカロリーの黒キヤップではなく通常の赤キヤップが好まれる。炭酸のスッキリ感とカロリー補給が目的のようだ。青木君が製作した奥駈道をデザインした日本手拭とカップ麺なども販売。これらもよく売れた。来年からは販売品目を増やすことを考えなくてはならない。なお今日持ってきたものを入れて缶ビール7ケース（168本）コーラ6ケース（144本）だった。全て売り切った。

事故・トラブルについて

南奥駈道で事故や遭難騒ぎは無かったようだが、5月2日持経宿に宿泊予定のグループ（5名）のリーダーの小玉さんが弥山付近で病死し、宿泊がキャンセルとなった。謹んでお悔やみ申し上げる。そのほか北奥駈道ではヘリコプターが出勤する遭難事故が数件あったようだ。行仙宿で大きなトラブルは無かったが、財布を無くしたので1万円を借用したいという東京からの若者がいた。

『5月1日』

バス時刻表を貼り換えに深仙宿に行くつもりだったが、朝からの雨降りのため行き先を行仙宿に変更する。午前9時半過ぎに登山口に着き、廃材を切ったマキを大量にモノレールに積んで登り出す。



マキを大量に積む

本日の参加者

青木車が待つ

青木氏は何やら買い物で下山中、坂田さんだけが留守番していた。雨で特別作業も無く、お昼過ぎに下山。登山口で待っていた青木氏と役場に行って通行許可証を頂いて帰宅した。（記：梶野）

『5月4日』

◇参加者 沖崎、大江加・徳、畑林秀・清・阪口、濱野、杉山、山川、上村和、森、栗山、岡野ななみ（沖崎孫）

依頼のあった缶ビール、水、ガソリン、カセットボンベ、両替金を持って小屋に届けた。この日から小屋番を務める山本さんに代わって青木、坂田のお二人が下山した。ご苦労様でした。また、日本山岳会静岡支部の6名が行仙宿に宿泊予定だ。瀧本、山口のお二人

も本日一泊し、山本さんのフォローをしてくださいました。昼食後、数人で行仙岳北側に段差補修材を運んだ。  
(記：沖崎)

山本さんに堺迄電車であっていただき、十津川村経由で行仙宿に向かう。五條のイオンでジャガイモやタマネギなどを調達。大塔の道の駅で瀧本さんと待ち合わせしていたが、道の駅は大混雑。暫く待つて中に入ったが瀧本さんの姿は無い。電話しても通じない。先に行ったと思いい道の駅を後にする。十津川村の道の駅も道路にまで車が溢れている。21世紀の森まで行き駐車場に降りてトイレ休憩。補給路登山口に着くと、朝から登っていたメンバーが降りてきたところだった。日帰りのメンバーと入れ替わり、荷物と山本さんを受けて登る。小屋に着いて青木、坂田氏から引き継ぎレクチャーを受ける。



日帰り組と交代



引継ぎ



携帯電話を発見

下山前に電話があり「沖崎さんが携帯電話を落とした」との

ことで、青木、坂田、梶野3人の6つの目玉で探しながら下山する。林道の直前、一番前に座っていた青木氏が「あった！」と声をあげた。林道から3mほど上の平らな岩の上に乗っていた。降り易い場所にモノレールを停めて拾い上げた。これから新宮に向かうお二人に携帯電話を託して帰宅した。  
(記：梶野)

『5月6日』

連休の最終日、山本さんを迎えに行く日だ。逆峰で奥駈道を歩いていた志岐さんと小川さんが行仙宿から下山するそうで、3人とザックを積まなければならぬ。行仙宿に着くと、なんか人間が多い。山本、志岐、小川の3名以外に男女2名がいた。チェコのカップルで本宮を目指しているようだ。今日はお天気が悪いので行仙小屋で休息するようだ。



行仙宿に到着



チェコの宿泊者と



下山中

持ってきた柏餅とちまきで歓待する。昼食を摂って12時40分過ぎに下山を始める。山本さんとザックなどをモノレールに積み、志

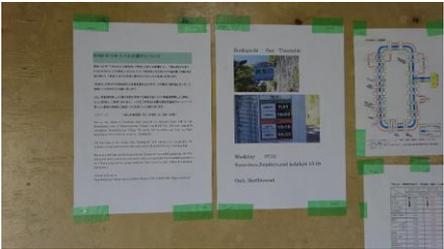
岐さん等は歩いて降りてもらう。午後1時半登山口を後にした。

(記：梶野)

### 【深仙宿】

『5月2日』

4月18日に深仙宿避難小屋にゆうゆうバス運休のお知らせを張り出したが、西原の通行止めが4月24日に解除され、ゆうゆうバスが前鬼口まで運行されるようになった。そのため運休のお知らせを貼り換える必要に迫られ、案内の紙2枚を持って深仙宿に向かった。太尾登山口は休日になると駐車スペースがなくなるので、今回は前鬼から登った。前鬼橋手前で後ろから大阪ナンバーの白い車が付いてきた。よく見ると五鬼助さんの車だ。ちょうどよかった、これで小中坊まで車で行ける。不動七重の滝の展望所で追い越してもらおう。三津子さんだけしか乗っておらず、五鬼助さんは小中坊泊だそうだ。



小中坊に着き五鬼助さんに挨拶、深仙宿まで行くと説明し登り始める。登山道に異常は無し、深仙宿に着いて食事しバスの案内を貼り換えた。通過した登山者は5名で、内2名のご夫婦らしい方は山彦の事をよくご存じだった。下山途中、太古の辻で少しだけ笹を刈って前鬼への下山口を判りやすくした。午後3時半に小中坊に着いた。

(記：梶野)

ゴールデンウィークの前半は少し雨もあったが、概ねお天気に恵まれ、来宿舎も昨年、一昨年に比べると多くなっている。小屋番の要を務めて頂いた村吉、青木、坂田、山本さんに厚く御礼申し上げます。

(記：沖崎)



5月4日の行仙宿